

いつの時代でもそうだが、美術家の生活は厳しい。世界のマーケットや、国内のマーケットで通用している作家であれば別だが、そういうラッキーな作家は極わずかである。おそらく、世界には何万、何十万という美術家がいるだろう。

「美術家名鑑」によると日本には二万五千人の美術家が名を連ねている。さらに、名鑑をあ

まり出していない現代作家や、在野の作家を含めると、相当な数となり見当がつかない。その中で、美術マーケットで実際に作品が動く作家は三百人に満たないと言われている。当然、美術家の芸術生活の厳しさは推

唐獅子

美術家の妻

上原 誠 勇

して知るべしである。しかも、日本の美術市場では市民権が薄い現代作家となると、なおさらである。

美術家がマーケットの内側にあるか、外側にあるかで、その作家の芸術性を推し量ろうとは

目ざすことは、表現者としての才能ももちろんのことであるが、一生を賭けた過酷なレースに挑戦する決断と、目に見えない相手に戦いを挑む勇氣を持つことである。しかし常に時代や環境の運、不運が付きまとい報

いませぬ」。こうして子供九人を抱えたミレー一家はパリからバルビゾン村に移り、あの有名なミレーが誕生する。厳しい美術家の生活は妻や家族の信

毛頭思わないのだが、美術ファンやコレクター、美術評論家などの社会的支持があり、それなりの芸術が認められてマーケットで取引されていることもまた事実である。

美術家がマーケットの内側を



カッタ・砂川 喜代

頼と支えなしには続けられない。そして最も大事なことは社会の人々が絵を買い、買うという行為で支えることである。

(画廊沖繩代表)

である。本当に大変な世界